太田市立旭中学校　3年　国語　学習プリント

詩「春に」（解答）

春に

谷川　俊太郎

①この気もちはなんだろう
②目に見えないエネルギーの流れが
③大地からあしのうらを伝わって
④ぼくの腹へ胸へそうしてのどへ
⑤声にならないさけびとなってこみあげる
⑥この気もちはなんだろう
⑦枝の先のふくらんだ新芽が心をつつく
⑧よろこびだ　しかしかなしみでもある
⑨いらだちだ　しかもやすらぎがある
⑩あこがれだ　そしていかりがかくれている
⑪心のダムにせきとめられ
⑫よどみ渦まきせめぎあい
⑬いまあふれようとする
⑭この気もちはなんだろう
⑮あの空のあの青に手をひたしたい
⑯まだ会ったことのないすべての人と
⑰会ってみたい話してみたい
⑱あしたとあさってが一度にくるといい
⑲ぼくはもどかしい
⑳地平線のかなたへと歩きつづけたい
㉑そのくせこの草の上でじっとしていたい
㉒大声でだれかを呼びたい
㉓そのくせひとりで黙っていたい
㉔この気もちはなんだろう

○詩の形式

☆詩の形式は、次の二点に注意して見分けます。
話し言葉である…**口語**（やわらかい・優しい）
書き言葉である…**文語**（かたい・まじめ）
七五調である…**定型詩**（リズムがある）
七五調でない…**自由詩**（形が決まっていない）

問題　『春に』の形式を選びなさい。
ア　口語定型詩　　イ　口語自由詩
ウ　文語定型詩　　エ　文語自由詩
（　イ　）

○詩のまとまり

☆詩には、ほかの文章と異なり、段落がありません。その代わりに、詩を意味や場面で分けるまとまりとして**連**というものがあります。

問題　『春に』は連がなく、ひとつのまとまりの詩です。ですが、意味のまとまりを考えると**3つのまとまり**に分けられます。3つのまとまりは、それぞれ行番号でいうと何番から何番までですか。
第一のまとまり（　①　～　⑥　）
第二のまとまり（　⑦　～　⑭　）
第三のまとまり（　⑮　～　㉔　）

問題　それぞれのまとまりは、最後の行が決まったある言葉で区切られています。その言葉を本文から抜き出しなさい。
（　この気もちはなんだろう　）

○対句

☆同じ文の形を使って、それぞれのちがいや共通点を目立たせる技法を**対句法**といいます。

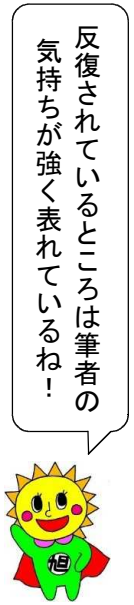
問題　対句が使われている箇所を、第二のまとまりの中からすべて選び、行番号で答えなさい。
（　⑧⑨⑩　）

問題2　第三のまとまりの⑳㉑と対句になっている箇所がある。行番号で答えなさい。
（　㉒㉓　）

○反復

☆全く同じ文を何度も繰り返すことで、その箇所を強調させる技法を**反復法**といいます。

問題　本文中で反復法が使われている文章を書き抜きなさい。
（　この気もちはなんだろう　）



○比喩

☆たとえ言葉を使って、様子や状態を読み手に想像させる技法を**比喩（ひゆ）**といいます。

☆比喩には、「まるで○○のようだ」という言い方をする**直喩**と、「○○は□□だ」という言い方をする**隠喩**とがあります。

☆また、**擬人法**という比喩があります。擬人法は、人間以外を人間にたとえた比喩です。「鳥が歌う」や「心が痛む」などは擬人法です。

問題 本文中で比喩が使われている箇所をすべて行番号で答えなさい。

（ ⑦⑪⑫⑬ ）

問題2 次のそれぞれの文のうち、直喩が使われているものはA、隠喩が使われているものはB、擬人法が使われているものはCを書きなさい。

①人生はマラソンだ。（ B ）
②布団がまるでトランポリンのようだ。（ A ）
③今日は調子がいいからペンが走る。（ C ）
④桜の花が舞いおどる。（ C ）
⑤桜の花がダンサーのようだ。（ A ）
⑥桜並木は演劇のステージだ。（ B ）

問題3 次のものに直喩を使い、比喩の文を作りなさい。

①お母さん
（（例）お母さんはまるで料理人のようだ。）

②学校
（（例）学校はまるでカフェのようだ。）

問題4 次のものに擬人法を使い、比喩の文を作りなさい。

①空
（（例）空が泣いている。）

②風
（（例）風がささやいてくる。）

まとめ

☆『春に』の詩は形式上、（ 口語自由 ）詩と呼ばれる。

☆この詩の中で筆者の思いが一番表れている箇所は、何度も反復されている（この気もちはなんだろう）という言葉である。

☆気もちについて述べられているこの詩では、第二のまとまりで対句を用い、
（ よろこび ）と（ かなしみ ）、
（ いらだち ）と（ やすらぎ ）、
（ あこがれ ）と（ いかり ）など、
それぞれ反対の気もちが自分の中でせめぎあう様子が表されている。

☆「心のダム」というたとえ言葉は、言い切りの形で使われる比喩であり、（ 隠喩 ）と呼ばれる。
ただ「せきとめる」だけではなく、「ダム」という言葉にたとえることで、気もちがとても大きなものであることを読み手に想像させている。

表現しよう

☆『春に』には「この気もちはなんだろう」というフレーズが何度も反復されている。ここでいう「気もち」とはどのような気もちだろうか。本文の内容を読み取り、どのような気もちであるか、あなたの考えを書きなさい。

（例）
春という新しい季節を迎え、楽しみなこともあれば不安なこともあるという複雑な思いが自分の中であふれ、作者本人にもわからなくなってしまっているような気持ち。

（例）
わくわくとどきどきが混ざってしまっている気持ち。

など